

11月の県内景況調査結果の概要

1. 主要指標の前年同月比DI値の動き

28年11月のDIは、8指標中6指標が下落。特に「景況」は2桁の大幅な下落となった。「収益状況」「雇用人員」は上昇となった。

2. 県内中小企業の景気の現状

一部の業種において、需要が安定的に推移している。また、遅れていた公共工事の発注量が増加し始める等、県内中小企業の景気に少し薄明かりが差しているように見える。

一方、暖かい日が続いたことによる需要の伸び悩みに加えて、景気の回復を感じられず、業況が好転するような大きな変化は見られないとの声も多く寄せられ、DI値において県内中小企業の景況感は悪化した。

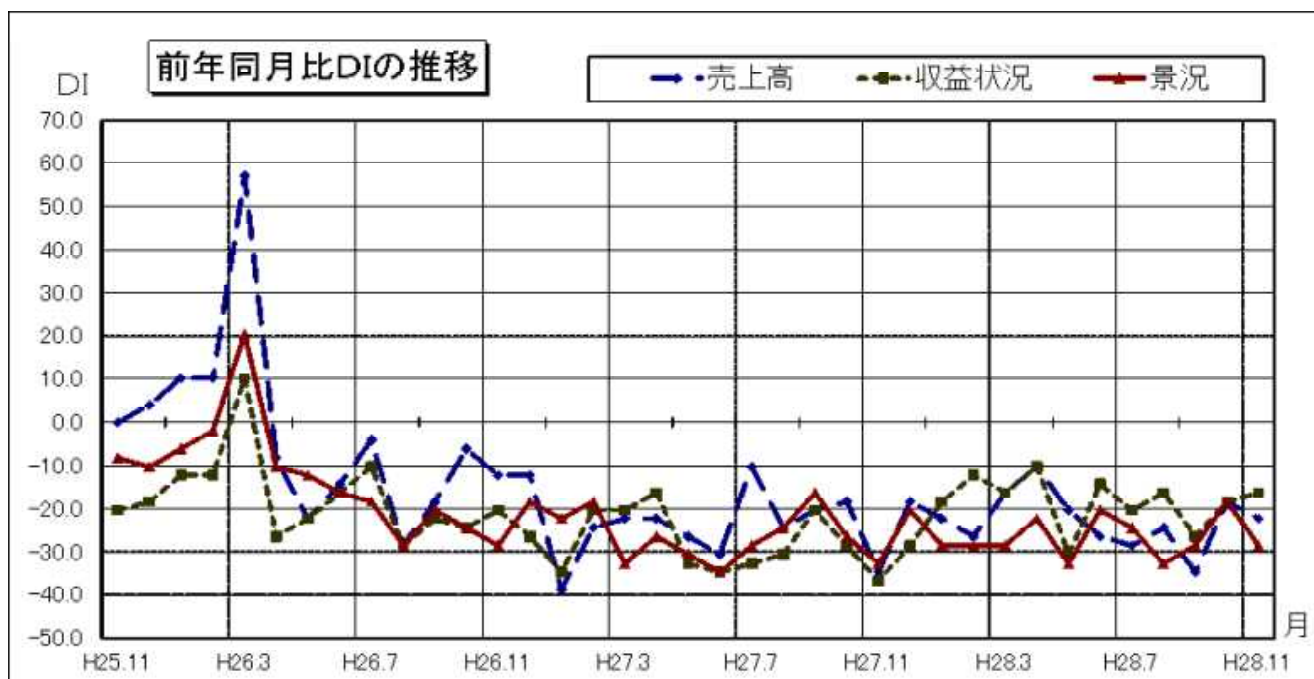
来春大型ショッピングモール進出による競争激化、慢性化した労働力不足からくる人件費の上昇や原油価格が上昇基調にあることにより、今後の企業収益への影響が懸念される。

また、トランプ次期米大統領の経済政策をはじめ国内外ともに不安要素は多く、県内中小企業においても景気の先行きは読みにくい。

最近の主要指標の前年同月比DIの推移

	H27 11月	12月	H28 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	増減
景況	-32.7	-20.4	-28.6	-28.6	-28.6	-22.4	-32.7	-20.4	-24.5	-32.7	-28.6	-18.4	-28.6	-10.2
売上高	-34.7	-18.4	-22.4	-26.5	-16.3	-10.2	-20.4	-26.5	-28.6	-24.5	-34.7	-18.4	-22.4	-4.0
収益状況	-36.7	-28.6	-18.4	-12.2	-16.3	-10.2	-30.6	-14.3	-20.4	-16.3	-26.5	-18.4	-16.3	2.1
販売価格	-2.0	4.1	0.0	4.1	8.2	4.1	-10.2	-10.2	2.0	-8.2	-6.1	6.1	2.0	-4.1
取引条件	-6.1	-2.0	-2.0	-8.2	-10.2	-6.1	-6.1	-8.2	-10.2	-6.1	-8.2	4.1	2.0	-2.1
資金繰り	-18.4	-8.2	-22.4	-12.2	-12.2	-8.2	-6.1	-10.2	-10.2	-10.2	-14.3	-6.1	-8.2	-2.1
設備操業度	-16.7	-11.1	-22.2	-27.8	-27.8	-22.2	-33.3	-11.1	-38.9	-33.3	-22.2	-5.6	-11.1	-5.5
雇用人員	-12.2	-14.3	-16.3	-22.4	-24.5	-24.5	-18.4	-20.4	-22.4	-16.3	-16.3	-16.3	-12.2	4.1

※DI値…好転（増加・上昇）したとする割合から、悪化（減少・低下）したとする割合を差し引いた値のこと。



[景況関連の報告]

【製造業】

<食料品>

1. 味噌

県内の味噌の生産量及び出荷量は対前月比小幅ながら増加しているものの、対前年同月比では減少している。また、全国の味噌の生産量は増加しているが、出荷量は減少傾向にある。業界動向として、「甘酒」の需要が増加傾向で推移している。

2. 菓子

売上高不変。収益状況悪化。組合活動事業として、共同販売や阿波ういろのブランド化に施策を実施してきたが、売上向上までは結びついていない。地域ブランドづくりの推進や新しい販売の構築が必要である。全国的には、お菓子の消費は微増ながら伸びているが、県内においては、来年に新しいショッピングモールがオープン予定であり、業態変化した新しい商品に客が流れてしまうと思う。また、人手不足が深刻化し、人件費アップなど今後は益々利益が圧迫されるようになる。

<木材・木製品>

3. 木材

秋需本番期に入り、原木丸太の荷動きがやや旺盛な動きが見られ、価格もジリ高の展開。取扱い金額が対前年比増となっている。しかし、製材製品の動きが低調との声が多く聞かれ、建築需要は未だ厳しい状況で推移しており、業界の体制に大きな動きは見られない。

4. 唐木仏壇

売上高不変。収益状況不変。見本市を開催したが、仏壇需要低迷により小売店の購買意欲が低かった。

5. 木材

売上高減少。収益状況悪化。地方と大都市、特に関東地方との格差が開きつつある。やはり人口密度の減少している地方と増加している中心都市とでは仕方がないことなのかと思う。

<印刷>

6. 印刷

11月も売上高が減少する厳しい月となった。ペーパーレス化、グローバル化の波は多少を問わず、着実に印刷需要を減少させる。年末の12月はクリスマス等のイベントが盛りだくさんある。少しずつでも売上に積み重ねて年末需要の拡大に繋げていき、印刷市場をもっと刺激していかなければならない。

7. 印刷

前年同月比では、全般的に若干好転した模様である。依然として地元小売業からの受注は低調であるが、第3次産業からの受注が若干増加傾向にある。年末商戦に向けての小売業からの受注は例年もう少し早い時期から動き始めるのだが、今年は少し動き始めるのが遅い。今後の活発な動きに期待したい。また、地方の印刷業者は、官公需関連の印刷物に依存するケースが多い。地元資本の商工業者からの発注が減り続けるなか、官公需関連の適性価格での発注をお願いしたい。

<窯業・土石製品>

8. 生コン

売上高減少。収益状況悪化。11月は対前年同月比出荷量は若干増加したが、出荷の増加は一時的なものであるとみている。これまでの発注工事を調べても、この先それほど多くの出荷は見込めない。

<鉄鋼・金属>

9. 鉄 鋼

業況に大きな変化はなく停滞状況。景況感改善の動きが見られず、依然として先行き不透明感が拭えない。

10. ステンレス

売上高不変。収益状況不変。国内景気は緩やかな回復基調にあるとの事だが、まだまだ設備投資の回復には至っていない。海外情勢の不安定な状況も重なり、先行き不透明な状況が継続している。

<一般機器>

11. 機械金属

売上高や収益状況の改善に繋がるような大きな変化は見られない。株価や為替の急激な変動等、将来に対する先行き不透明感が依然として強い。また、雇用状況の改善により、中小企業への人手不足が懸念される。

【非製造業】

<卸売業>

12. 各種商品卸

売上高増加。収益状況不変。各業種とも業績低迷の中、販売ルート（全国大手企業、他業界からの進出）の拡大に苦慮している。

<小売業>

13. 繊維卸

売上高不変。収益状況不変。店頭や催事での販売は実需に入っても盛り上がりには欠ける。ネットでの販売などを含め様々な流通手法が増え、既存手法だけでは成長が期待できない。

14. ショッピングセンター

昨対比はスーパー94%（食品93%、衣料98%）、専門店94%であった。店舗全体では昨対比94%という結果であった。専門店では引き続き食料品店と飲食店が好調であるが、装身具や文具品などの身の回り品の店舗は売上に苦戦している。新店舗の誘致に力を入れている。

15. プロパンガス

ガスを安全に使うための周知文書とカレンダーを顧客に配布し、今後の業況の好転に繋げていきたい。

16. 電気機器

家庭用、事務所等のLED照明の買い換え需要が順調に伸びている。反面、デジタル関連機器の動きが鈍い。

17. 畳小売業

売上高減少。収益状況不変。一般の畳替え工事がやっと動き出した様子。また、これから1月にかけて柔道畳の納品準備で多忙になりそうだ。今後、住宅エコポイントが新制度になるが、前回と違って対象住宅の性能条件等が厳しく、多くの方に利用して頂けるか不安である。

<商店街>

18. 徳島市

全体に暖かい日が多く、秋冬物の動きが低調であり、客足も鈍かった。景気上昇の気配が見られず、先行きの見通しは下降線をたどると予想される。

19. 阿南市

売上高不変。収益状況不変。12月のクリスマスイベントに期待する。

<サービス業>

20. 土木建築業

業務量は落ち着いている。今月より雇用人員を何名か増加させている。

21. 自動車整備

平成28年11月の登録自動車（普通車）の新車登録は対前年比+9.1%、中古車は+11.2%、合計では+9.6%と微増。軽自動車においても、新車登録は対前年比+3.5%、中古車+16.9%、合計は+6.5%の微増となったが、過去5年間で見ると登録台数は少ない。登録自動車（普通車）・軽自動車の登録合計は対前年比+8.2%。登録自動車（普通車）の新車販売台数は対前年同月比多いものの、例年並みの動き。

22. 旅行業

この秋は、紅葉の見頃終わりが早かったり、鳥取県中部地震の影響で旅行客が少なかったようだ。

<建設業>

23. 建設業

業況は悪化したものの漸く、公共工事の発注量が増加してきた。

24. 解体業

個人住宅（戸建）の発注件数が対前年比増加した。

25. 鉄骨

鉄筋工事業・対前月比ほとんど変わりなく推移している。

26. 板金工事業

仕事量は安定しており、売上高も増加した。

27. 電気工事業

新設住宅口数は252件で対前年比104.5%と増加したが、業況は不変であった。

<運輸業>

28. 貨物運送業

一般貨物輸送は、取扱業種により異なるが全般に取扱量は前年並みであり、野菜関係は増加した。また、軽油単価は10月より上昇に転じており、今月も約2円弱上昇した。OPEC総会での減産決定により、さらなる上昇が予想され今後の展開を

注目。

29. 貨物運送業

燃料価格は少し上がったが、低値を保っている。輸送量は概ね例年通りに推移しており大きな変化はない。